

2017年（平成29年）5月10日

2017年度 鉄道・バス設備投資計画 安全対策とサービス向上に総額105億円 新型車両を導入し、既存車両や駅舎をリニューアル

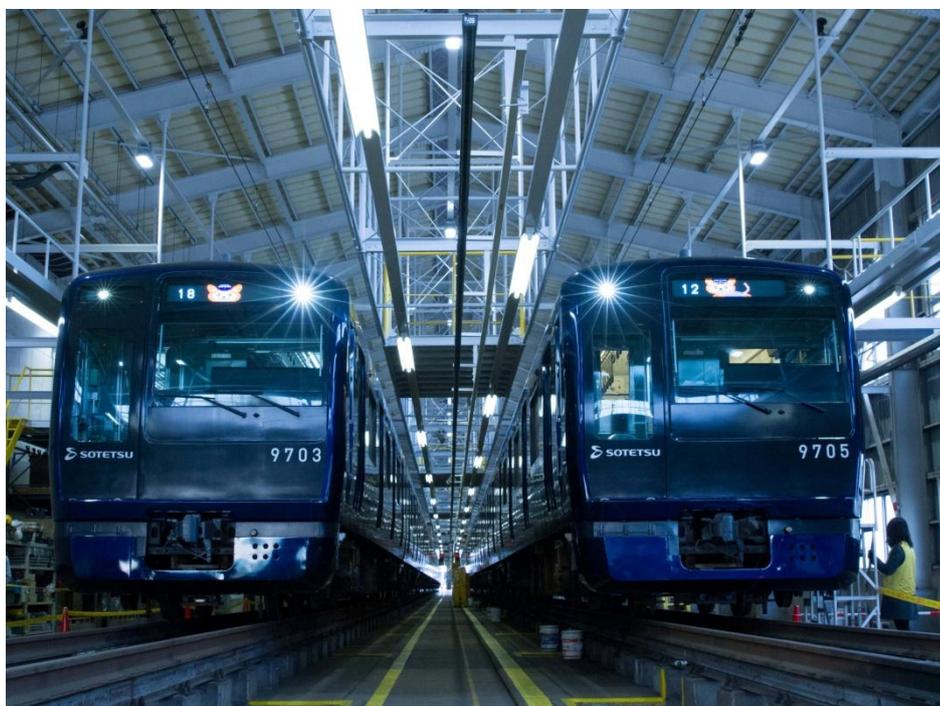
相鉄グループ

相鉄グループでは、2017年度（平成29年度）において、鉄道事業とバス事業に対して総額105億円（鉄道事業98億円・バス事業7億円）の設備投資を実施します。

鉄道事業（相模鉄道株：本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、お客様の安全と安定輸送を確保するため車両機器や電気設備の更新等を行い、さらなる安全性の向上を図ります。また、お客様へのサービス向上を図るため、「デザインブランドアッププロジェクト※1」の統一コンセプトに沿った新型車両の導入や既存車両・駅舎のリニューアル、ホーム待合室、行先案内表示装置の新設を行います。

バス事業（相鉄バス株：本社・横浜市西区、社長・菅谷雅夫）では、さらなるバリアフリー化を推進するため、大型・中型ノンステップバス20台を導入するとともに、IC定期券導入の準備を進めることでお客様の利便性向上を図ってまいります。

詳細は、別紙のとおりです。



統一コンセプトに沿った9000系リニューアル車両

(記号：◎今年度竣工予定の工事・○継続工事)

[鉄道事業] 98億円

1. 安全・安定輸送の確保

○相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業

星川駅～天王町駅間の踏切による交通渋滞の解消などを図るために、星川駅と天王町駅を含めた約1.8kmを高架化し、9カ所の踏切を除却します〔2002年度（平成14年度）に着工〕。2016年度（平成28年度）は下り線の高架化を実施。2018年度（平成30年度）の上り線の高架化に向けて引き続き工事を進めます。＊本事業は横浜市の都市計画事業です。



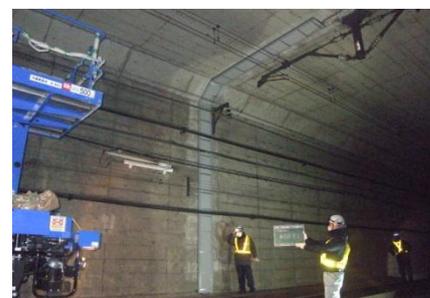
下り線が高架化された星川駅

○8000系車両の重要機器更新

8000系車両のVVVFインバータ装置（モーター制御装置）とSIV補助電源装置を新装置に交換し、保安度の向上を図ります。今年度は、8000系車両2編成20両の更新を予定しています。

○トンネルの内部改修

万騎が原トンネル（横浜市旭区）内部の改修を実施し、コンクリート片の剥落を防止することで、安全強化を図ります。



トンネルの内部改修

○変電所設備の更新

各変電所の主要設備を更新し、電車・施設への電力送電の保安度向上を図ります。

2. サービスの向上

○新型車両の導入

2019年度（平成31年度）下期に相鉄・JR直通線、2022年度（平成34年度）下期に相鉄・東急直通線の開業に向けて、順次新型車両を導入してまいります。今年度は、新型車両1編成10両を導入する予定です。＊新型車両の詳細は6月頃に発表する予定です。

○9000系車両リニューアル

「デザインブランドアッププロジェクト※1」の取り組みとして、車両リニューアルを進めています。車体を「ヨコハマネイビーブルー」に塗装するほか、座席のバケット化などの内装改良や車内案内表示の液晶画面化などを行います。今年度は、2編成20両のリニューアルを予定しています。竣工後はすでに運行を開始している2編成に加え、4編成となる予定です。



9000系リニューアル車両

○駅舎のリニューアル〔西横浜駅・緑園都市駅・弥生台駅〕

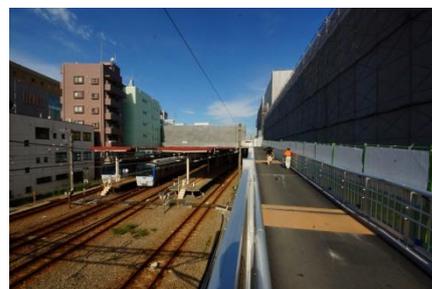
「デザインブランドアッププロジェクト※1」の取り組みとして、駅舎のリニューアルを進めています。お客様により便利で快適にご利用いただけるよう、内外装の改修などを実施します。今年度は、西横浜駅、緑園都市駅、弥生台駅のリニューアルを予定しています。



リニューアルしたいづみ野駅

○二俣川駅駅舎の増築

二俣川駅南口再開発事業に合わせて、駅舎の上層増築をするほか、コンコース階のリニューアルを実施します。2016年度（平成28年度）には東西自由通路が開通し、改札口へのアクセスが向上しました。引き続き、駅舎の改良工事を進めます。



開通した二俣川駅東西自由通路

○海老名駅総合改善事業

鉄道駅総合改善事業（形成計画事業）として、北口と南口2階への改札口の増設、ホームドアの新設、保育施設を整備した駅舎の建て替えを行います。完成は、2019年度（平成31年度）末を予定しています。

◎ホーム待合室の新設 [鶴ヶ峰駅]

電車を快適にお待ちいただくため、鶴ヶ峰駅の上下線のホームに待合室を設置します。

○行先案内表示装置の設置 [和田町駅・相模大塚駅・さがみ野駅・緑園都市駅]

列車種別・発車時刻・乗り換え案内等を表示する行先案内表示装置をホームや改札口付近に設置し、お客様へのご案内サービスの向上を図ります。



2016年度（平成28年度）に新設した
いずみ野駅の行先案内表示装置

[バス事業] 7億円

◎乗合バスの導入（20台）

変速ショックの少ないオートマチックトランスミッションを採用した、お客様が乗降しやすいニーリング機能※2付き大型・中型ノンステップバス計20台を導入します。



運行中の大型ノンステップバス

◎IC定期券の導入準備

バス定期券情報を書き込むことで、お手持ちのIC乗車券がバス定期券になります。2018年度（平成30年度）からのご利用を予定しています。

※1 デザインブランドアッププロジェクトとは・・・

お客様との最大の接点となる鉄道の車両や駅舎、制服などを統一されたデザインコンセプトに基づきリニューアルを進め、認知度や好感度を高めることで「選ばれる沿線」を実現するための新たな取り組み。

※2 ニーリング機能とは・・・

エアサスペンションの空気圧を調整して車体を傾けることにより、乗降口側を低くして乗り降りを容易にする機能。